

特別展 第12回刀剣展「堀井一門～三代没後120年・100年・80年展」

会期 10月14日(土)～29日(日) 会場 仙台藩白老元陣屋資料館  
 内容 日本製鋼所の招きにより、大正期から室蘭の瑞泉鍛刀所で日本刀の製作に励み勤しんできた初代堀井胤吉(たねよし)、2代胤明(たねあき)、3代俊秀(としひで)らの作品を一堂に収集し、北海道において堀井一門の果たした足跡と美術品としての日本刀を学びます。  
 作品数 刀・脇差・短刀など34点 入館料 小中学生150円、高校生以上300円(町民無料)  
 展示解説 講師の堀井胤匡(たねただ)さん(元日本製鋼所瑞泉鍛刀所刀匠)が、10月14日(土)「堀井一門と日本刀について」、15日(日)「初代堀井胤吉について」、22日(日)「2代堀井胤明について」、29日(日)「3代堀井俊秀について」解説します。 ※時間はいずれも10時から11時。参加無料。

北海道遺産選定1周年記念特別講演会

日時 10月28日(土)13時30分～15時 会場 仙台藩白老元陣屋資料館会議室  
 内容 仙台藩白老元陣屋は昨年10月13日に北海道遺産に選定され、「北海道の宝物」となりました。これを記念した特別講演会です。  
 講師 野坂晃平さん(えさし郷土文化館課長(岩手県奥州市))  
 演題 「幕末維新、蝦夷地警衛 仙台藩岩谷堂足輕の視点から」  
 参加料 高校生以上300円(ただし町民無料) 定員 25人 申し込み 10月6日(金)から受け付け開始

申し込み・問い合わせ先：元陣屋資料館 ☎85-2666

この10月で白老に来て丸2年がたち、年度委員の協力隊活動としては今年4月で3年目に入りまして。4才の子を連れてシングルマザーで移住したころは、不安だらけでした。保育園が本当に素晴らしかったのが、一番良かった点です。園長先生の理念や保育士の温かき加えてこちらの温かき。加えてこれまでの協力隊の実績や関係者の皆さんの理解と支援のおかげで、自由な活動ができることに感謝しています。冊子「白老ハポの手仕事」の作成と、札幌での展示会です。この私の描いた希望を実現に導いてくれたのは、役場のアイヌ政策推進室の皆さんでした。推進室の方々がこれまで蓄積したノウハウや地域の方との信頼関係を、



乾藍那さん(36)  
アイヌ文化振興担当(3年目)

地域おこし協力隊通信

エッチラ、オッチラ歩めた感謝の2年間



私がお借りしました。同室の女性生活相談員さんは2年前、私の仕事初日に子育てふれあいセンター「すくすく3・9」に連れて行くつてくれました。育児と仕事の両立が一番の課題だと、すぐに見抜いてくれたのでしよう。周りの賢い女性たちにも助けられ、ポンコツなシンママの私も、エッチラ、オッチラ歩いてきました。任期もあと半年ですが、当初の目標だったマンガ作りも始めたいと思っております。

知っておこう アイヌ文化

マレク

イランカラブテ。チキサニでは10月に川のイオル「川漁体験」を開催いたします。ウヨロ川を会場に、町内の小学生も参加し、アイヌ民族の伝統的な川漁の道具を使って、サケを釣り上げる体験やサケの解体体験、川漁に使用した丸木舟やサケを使った料理の試食体験も行います。さて、現在では主に海で行われるサケ漁ですが、アイヌ民族にとっては本来、サケは川で採るもので、その代表的な漁具がマレクであります。マレクは主に釣り針の形に曲げられた鉄の部分と、それを納める溝が掘られた台木、そして台木に結び付けられる柄といった三つの部分から構成されます。鉄の部分は根元を中心に半回転するよう台木と結び付けられ、マレクで川の中のサケを突くと、先端が川面に向かっていて鉄の部分が台木から離れ、サケを引き上げると鉄の部分が回転することでサケに食い込み、確実に引き上げることができるようになっています。そもそも、どんなに優れた川漁の技量を兼ね備え、どんなに優れたマレクを持っていたとしても、あらゆる自然や身の回りにある物に対する感謝の心を持ち合わせていない人は、サケを釣り上げることはできないと言います。伝統的な川漁を通して、アイヌ民族の精神世界も学ぶことのできる、川のイオルへ、皆さまのご参加をお待ちしております。詳細は本紙P20「くらし百科 催し イオル体験交流事業」をご覧ください。政策推進課 アイヌ政策推進室 学芸員 森洋輔



川のイオル「川漁体験」で使用されるマレク

問い合わせ先：イオル事務所 チキサニ ☎82-6301